

地方都市中心市街地における公共空間化する商業施設の実態に関する研究

【代表者】 小椋 弘佳 米子工業高等専門学校 建築学科 准教授

(総合工学科建築デザイン部門 2021年度改組により所属名称変更)

【共同研究者】 細田 智久 島根大学 総合理工学部 建築デザイン学科 教授

【研究の目的と内容】

我が国では人口減少や少子高齢化を前提として、利用が低迷傾向にある官民の公共空間（一般に開放される公共性の高い空間）の利活用を目指した都市拠点の再編成が進められている。利用者減少や行政の財政難による施設の老朽化や未利用化が進行する公共施設では、多くの自治体で立地適正化計画や公共施設再編計画など都市空間の再編（集約・縮小）に向けた取り組みが積極的に実施されている。また、公共空間再編を検討する主体は、行政のみならず民間にも広がり、民間が主体的に地域の実情に沿った公共空間をつくる事例も増えている。このように、公共空間再編手法は多様化している。今後さらに、社会の変化に対応可能な行政計画が求められる中で、公共空間再編手法にも柔軟な視点での検討が必要であるといえるが、それには、多様な事例がある民間主導の再編手法の動向を捉えることが必要だと考える。

そこで本研究では、民間商業空間（特に大型ショッピングセンター、以下 SC）の空きスペースにパブリックスペースを積極的に取り入れ、店舗区画を一般に開放する事例に着目し、公共空間の創出方法および公共空間を取り入れた背景やプロセスを解明するとともに、利用実態を明らかにすることで、地方都市における実効性ある公共空間再編の方法論のひとつとしてまとめる。具体的な研究課題は以下3点とし、図1に研究計画・方法の概要を示す。

研究課題①「公共空間化する商業施設」の全国先進事例の把握

研究課題②「公共空間化する商業施設」の類型化および代表6事例における成立要件の抽出

研究課題③「空き店舗区画更新型」の公共空間形成プロセスの解明と有効性の検証

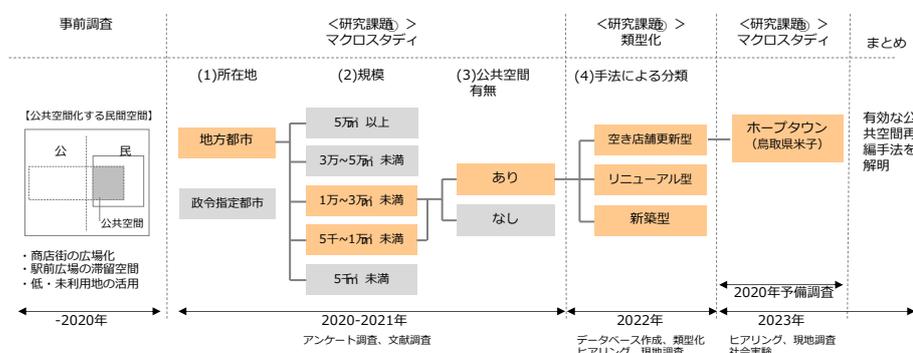


図1 研究フロー・調査方法

【研究の成果（本研究によって得られた知見、成果、論文、学会発表、外部資金への応募見込み等）

得られた知見：研究課題①ではデータベースを作成しSCの全国動向を捉えた。 研究対象は日本ショッピングセンター協会発行の『SC白書2020』のSCリストに掲載される844事例とした（東京都と政令指定都市を除く）。結果として、各SCホームページを参照し地域開放場所を有す事例115件（14%）を確認した（図2）。地域開放場所の種類は休憩所やイベントスペース以外にもキッチンスペースやコワーキングスペースなど多様化しており、複数の地域開放場所を有し大手SCとの差別化を図るSCも出現していた（表1）。そのうち、複数の地域開放場所を有するSCであり、レンタルスペースが特徴的な鹿児島県鹿児島市のマルヤガーデンズ、イベントスペースが特徴的な長崎県佐世保市のさせば五番街、公共機能が特徴的な香川県高松市の瓦町 FLAG および鳥取県米子市のホープタウンについては、地域開放場所の詳細（空間構成・設えの特徴、運営状況等の特徴など）を比較考察し、類似点・特異点を整理した。

研究課題③では、最も低コストで柔軟に地域状況に沿って対応できる「空き店舗区画更新型」の事例として、鳥取県米子市に立地する大型SCであるホープタウンを対象に、公共空間形成プロセスを明らかにするとともに、社会実験的に公共空間化のに向けた事業に参画し、空間の維持に向けた課題点を探ることを目的としている。今年度は研究課題③の予備調査として、運営者ヒアリング、図面・模型化、利用者行動観察、利用者インタビューなど多角的な調査を実施した。 結果として、地域開放場所創出の変遷や空間・設えの特徴、利用者属性、利用実態、運営者の空間整備意図、地域開放場所整備における今後の課題や展開などを把握することができた。



図2 全国のSCの傾向・調査対象の選定

表1 全国のSCにおける地域開放場所の種類(複数回答 n=115)

	イベントスペース			フリースペース									公共機能		レンタルスペース				
	屋内広場(イベント利用可)	屋外広場(イベント利用可)	催事場	屋外系			屋内系						図書館	その他の行政機関	貸し出し多目的室/会議室/調理室/音楽室	体育館	オフィス	ホール	
合計(件)	47	7	35	6	10	3	2	1	4	16	3	3	22	16	39	47	1	5	34
分類毎の合計(件)	89			70									55		87				
比率(%)	52.8	7.9	39.3	8.6	14.3	4.3	2.9	1.4	5.7	22.8	4.3	4.3	31.4	29.1	70.9	54	1.2	5.7	39.1
先行事例																			
	パビオスあかし(宮崎)			瓦町 FLAG(香川)			であえーる石見沢(北海道)						パビオスあかし(宮崎)		であえーる石見沢(北海道)				

なお、今年度は、本校本科生の卒業研究テーマとして設定し、研究を遂行した（別途資料添付）。

外部資金への応募状況：本研究テーマを基に、研究題目を「地方商業空間に生み出されるパブリックスペースの地域拠点としての役割と発展性の解明」としてまとめなおし、令和3年度科学研究費助成（若手研究）に応募し、採択された。また関連して、共同研究者の細田教授は令和3年度科学研究費助成（基盤研究C、研究題目：山間地域自治体での地域コミュニティ維持に向けた公共公益施設の再編効果と課題の解明）に応募し、採択された（本研究代表者の小椋は研究分担者として応募した）。

学会発表・論文：今年度の研究成果と令和3年度の研究成果を合わせて、令和3年度建築学会中国支部研究発表会にて発表を予定している。また、今年度の研究成果を踏まえて、令和3年度からは専攻科生の特別研究（2年間）のテーマとしても設定し、継続して教育・研究を進める予定である。その結果をまとめて、建築学会計画系論文集への論文投稿を予定している（2024年度投稿予定）。